

ヤンバルクイナの嘆きの里より

私たちは、那覇防衛施設局(現・沖縄防衛局)がすすめようとするヘリパッド建設に反対し、2007年7月2日から、米海兵隊北部訓練場の進入路前で座り込みを続けてきました。

翌7月3日に防衛局が訓練場進入路三か所に仮設ゲートを設置。ショベルカーの搬入や深夜作業の着手など多くの動きがありました。しかし徹底した非暴力の座り込みによって、大々的な工事の着手をさせていません。

建設されようとしているヘリパッドは、高江区をとり囲むように、数キロ範囲内に6か所も予定されています。すでに東村には15か所のヘリパッドがあり、毎日昼夜を問わず、高江上空を飛行訓練しています。それなのに今以上、よりひんぱんに、より近くに、より多く私たちの生活区域を飛び交うというのです。しかも配備されるのは欠陥機と呼ばれる新型機オスプレイです。危険極まりない無謀な基地建設と言わざるを得ません。

私たちは、平穏な生活が爆音と墜落の危険にさらされることに、断固反対します。また、県民ならご承知のように、ヘリパッドが建設されようとする地域は、県民最大の水がめ(生活用水の60パーセントをまかなう)であるダムが集中する貴重な水源地です。

やんばるの森は、ヤンバルクイナやノグチゲラなど、世界でもここにしかいない貴重な動植物の宝庫です。しかしこれらは絶滅危惧種で、世界的な自然保護機関であるIUCNやWWFなどが日本政府に対して森の保護勧告をしています。世界自然遺産にも登録されようとしているこの宝の森を、基地建設で破壊させてはなりません。

戦後63年。今なお米軍の占領下にあるかのような沖縄。いたるところで今も米軍の横暴にさらされ続ける沖縄。私たちは、この長い苦難の歴史を、勇気と情熱で抗い続けた先人の力に学びながら、ヘリパッド建設に反対し、県民運動に発展させ、基地建設が中止されるまでがんばりぬく決意です。

どうぞ私たちに力を貸してください。
ぜひ一度、高江に足をお運びください。
私たちといっしょにがんばりましょう。

「ヘリパッドいらない」住民の会

高江マップ



- *一日でも、一時間でも、一緒に座って下さい。
- *高江で何が起っているかを映像にしたDVDを販売中です。
『やんばるからのメッセージ～沖縄県東村・高江の記録』/1000円
DVD注文先アドレス oracion@nohelipadtakae.org
- *私たちの活動はみなさまからのカンパでまかなわれています。このリーフレットもカンパで作成することができました。

「ヘリパッドいらない」住民の会(通称「ブロッコリーの森を守る会」)

〒905-1201 沖縄県国頭郡東村高江上新川85-2
TEL&FAX 0980-51-2688 携帯電話090-9789-6396
Eメール info@nonhelipadtakae.org
ブログ「やんばる東村高江の現状」 <http://takae.ti-da.net/>
カンパ振込口座 郵便局01780-1-65612(名義「ブロッコリーの森を守る会」)

- 那覇～辺野古・高江を平和市民連絡会が送迎車を出しています。途中乗車も可能です。
*問合せ先*090-2712-6486(長嶺) 080-1782-6598(城間)

やんばるさん、いつもおいしい水と空気をありがとう。



やんばるの森に



ヘリパッドなんて
いらないよ。



<http://takae.ti-da.net>
ヘリパッドとは、米軍ヘリコプター墜落時の事です。

高江の座り込みを支援しに来ませんか？

★「SACO合意」の真相

1996年のSACO(沖縄に関する日米特別行動委員会)合意によって、日米両政府は、北部訓練場の北側半分を返還するのと引きかえに、返還予定地にあるヘリパッドを南側に移設すること、これまで無かった、海からのヘリパッドの進入路を建設することに合意しました。この合意のねらいは、県民に基地を返還したと見せかけて、広すぎてほとんど使われていない北側半分を返還しながら、訓練場の南側部分の機能をよりいっそう強化していこうとするものなのです。

1998年には、北部訓練場は、世界で唯一のジャングル戦のための戦闘訓練施設として、「ジャングル戦闘訓練センター」と名称を変え、海兵隊のサバイバル訓練や、ヘリコプターでの移動宙吊り訓練、模擬弾を使用する射撃訓練など、戦場さながらの訓練が行われています。

★日本政府は住民意思を無視

高江区民は二度にわたって建設反対の決議を区民総会で決議しました。しかし日本政府はこの高江区民の決議を無視し、2006年には、高江の集落を取り囲むように6か所ものヘリパッドを建設すると発表しました。最も近いヘリパッドは民家からわずか400メートルしか離れていません。

これは辺野古の新基地建設と一体であり、米国でも配備への反対運動が起こるほど危険な最新鋭機「オスプレイの配備」に備えたものであることもわかりました。

★非暴力で座り込む

私たちは、この危険なヘリパッド建設が現実のものにならないように毎日24時間非暴力の座り込みを続けています。母親が幼い子を連れて座り込むこともしばしばです。非暴力の座り込みで高江の平和を守りぬく覚悟です。どうぞみなさまの力を、私たち高江住民にお貸しください。

北部訓練場どうなるの？

- 世界各国の米軍の同盟軍兵士がやってきて、戦闘訓練をする。実際にイスラエル軍などがすでに視察に来ている。
- 日本の安全保障とはまったく関係ない。ひたすらアメリカの世界戦略のために使われる。
- これまでのヘリコプターCH46に代わり、3倍の積載量の最新鋭機なるMV22オスプレイが来る。オスプレイは墜落事故多発の構造的欠陥機で、アメリカでは「未亡人製造機(widow maker)」と呼ばれている。
- オスプレイは、辺野古に造られようとしている新基地を出発し、高江を含む北部訓練場21か所にあるヘリパッドへ頻りに飛んでくるようになる。その騒音と光景は想像を絶する。
- 金武町のブルービーチでも新たなヘリパッド建設が計画されている。これらの計画を許してしまえば、伊江島飛行場も含めて沖縄島の北部全体をオスプレイが自由に飛ぶようになる。

東村高江は人口約160名の小さな集落 世界自然遺産候補の森が世界の軍事基地に!?

地元の声

私たちは自然と調和しながら暮らしています。
でもこんな恐ろしい危険が背中合わせに……

- ◆ 「訓練が始まったら、いつどこから米兵が出てくるかわかんから、怖い。武装した米兵が崖から転がり落ちてきたことも。農作業もできない」 60代女性
- ◆ 「夜も低空飛行で家の上を飛ぶ。窓ガラスはビリビリ、茶わんはガタガタ。石を投げたら当たりそうなくらい低く飛ぶ。わいわいして本当に石投げたくなる」 70代男性
- ◆ 「まるで戦争映画のように、いきなり大爆音とともにヘリコプターがまぢかに現れ、恐ろしかった」 40代女性
- ◆ 「子どもが夜中に泣きわめく。こわい、こわいと」 30代女性



24時間体制で座り込みを続けている

いまある被害だけでもこんなに大変なのに、 さらに6つもの新しいヘリパッドに囲まれては暮らしてはいけません!!



ゲート前で資材搬入強行を前にして非暴力で静かに座り込む

高江と金武町にヘリパッドが、辺野古に新基地が建設されたら、伊江島飛行場と連動して、やんばる全体が米軍の戦闘訓練の場となってしまいます!



北部訓練場入り口(他にゲートが三か所あります)
北部訓練場は、1967年に米軍に接収。現在、米軍海兵隊の世界唯一のジャングル戦闘訓練場として使用されている。ゲリラ戦や捕虜奪還訓練、山中において自力で食料を調達して生き延びるサバイバル訓練などが行われている。その訓練参加者数は年間最大10,000人。

